

第5章 作業部会

鳥類対策について専門的知見をもとに検討を進めるため、有識者を含めた作業部会を開催し、意見交換をした。作業部会の概要を以下に示す。

5.1 第1回作業部会

(1) 開催日時及び場所

日時：令和4年8月9日（火）14：00～16：00

場所：沖縄県男女共同参画センター「ていりる」会議室1

(2) 作業部会出席者

第1回作業部会の出席者を表5.1に示す。

表 5.1 第1回作業部会出席者

氏名	所属
委員	
金城 道男	沖縄フィールドワーク 代表
高原 建二	沖縄野鳥研究会 会員
田中 聡	希少野生動植物種保存推進員
山村 光司	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境研究部門 土壤環境管理研究領域 農業環境情報グループ 専門員
オブザーバー	
仲盛 敦	竹富町役場自然観光課 課長補佐
沖縄県	
当真 秀	沖縄県環境部自然保護課 希少種・外来種対策班 班長
和宇慶 剛	沖縄県環自然保護課 希少種・外来種対策班 主任
事務局	
徳丸 慶太郎	株式会社南西環境研究所 自然環境室 室長
峯 光一	株式会社南西環境研究所 自然環境室 副長
富永 優太郎	株式会社南西環境研究所 自然環境室 研究員
安里 武尚	株式会社南西環境研究所 自然環境室 研究員
佐久川 涼佳	株式会社南西環境研究所 自然環境室 研究員

(3) 議事概要及び指摘事項

第1回作業部会における議事概要及び対応方針は表 5.2 のとおりである。

表 5.2 指摘事項及び対応方針等

No.	指摘事項	対応方針等
1	(インドクジャク CPUE 解析 2016-2021) アクセス困難箇所にいる個体が多いことが示唆されており、そういった個体の確認・駆除を早く始めないといけない。	アクセス困難箇所における生息状況の把握及び生体駆除が早い段階で実施できるように以下に示す方法を検討する。 ・ドローンによる調査を継続する。
2	(インドクジャク CPUE 解析 2016-2021) アクセス困難箇所の残存個体をどのように駆除するかということが課題となる。駆除作業の技術というより、そこにどうアクセスするか検討が必要である。	・アクセスが容易なねぐらでの作業頻度を見直し、アクセス困難箇所に時間をかけてアクセスする。 ・作業道を開拓する。または、竹富町役場が開拓を予定している作業道を利用する。
3	(資料 3) キジについては、今後の防除対策を考慮し、分布北限の確認に加え、生息実態を確認したほうがよい。	今後の防除対策手法の検討のため、今年度調査では現地調査及び既存資料から生息実態を把握し、それに資するものとする。
4	(資料 3) キジを駆除するとなったときに、どのような方法で実施するのか検討してほしい。	
5	(資料 3) クジャクとキジの両方について、卵は採取せずにお湯等で殺処分後放置し、その場で抱卵を続けさせる方がよい。その場で抱卵をずっとさせることで、2 回目の繁殖を抑えることができる。	次年度の営巣卵探索時には、左記の方法を試行する。具体的には、保温性の高い水筒に熱湯を入れて探索時に持ち歩き、発見した卵を器に入れて熱湯をかけて試す。
6	(シミュレーションモデルの Excel データ更新内容) R(統計解析向けのプログラミング開発実行環境)でシミュレーションを行い、推計値を出すという方向に変えてもよい。	R 算出による推計値をシミュレーションモデルに用いることを受託者が試行する。

5.2 第2回作業部会

(1) 開催日時及び場所

日時：令和5年1月27日（金）14：00～16：00

場所：沖縄県男女共同参画センター「ているる」研修室2

(2) 作業部会出席者

第2回作業部会の出席者を表5.3に示す。

表 5.3 第2回作業部会出席者

氏名	所属
委員	
金城 道男	沖縄フィールドワーク 代表
高原 建二	沖縄野鳥研究会 会員
田中 聡	希少野生動植物種保存推進員
山村 光司	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境研究部門 土壌環境管理研究領域 農業環境情報グループ 専門員
オブザーバー	
仲盛 敦	竹富町役場自然観光課 課長補佐
沖縄県	
和宇慶 剛	沖縄県環自然保護課 希少種・外来種対策班 主任
下地 彩乃	沖縄県環自然保護課 希少種・外来種対策班 主事
事務局	
徳丸 慶太郎	株式会社南西環境研究所 自然環境室 室長
峯 光一	株式会社南西環境研究所 自然環境室 副長
安里 武尚	株式会社南西環境研究所 自然環境室 研究員
佐久川 涼佳	株式会社南西環境研究所 自然環境室 研究員

(3) 議事概要

第2回作業部会における指摘事項及び対応方針は表 5.4 のとおりである。

表 5.4 指摘事項及び対応方針等

No.	指摘事項	対応方針等
1	(資料 1-3) ねぐらに複数羽いる場合、1羽捕獲している間に他個体が逃げてしまい、捕獲効率が悪くなる。同時に多く捕獲員を投入して、短期間に強力に捕獲圧をかけた方が良い。	空気銃所持者を含め、人員確保に向けて検討していく。
2	(資料 1-4) 米軍基地周辺は自然林が発達していて、ねぐらの確認に苦勞すると思うが、工夫して探してもらいたい。	関係機関と調整しながら、ねぐらの発見に努めたい。
3	(資料 1-4) キジは、駆除した何個体かを冷凍保存しておき、剥製標本にして、県及び関係する自治体の博物館に展示するなどして、外来種対策の普及啓発のため有効に活用してもらいたい。	駆除した個体は、普及啓発に活用できないか検討していく。
4	(資料 1-4) キジは産卵数が多く、増殖率が高いので、営巣卵採取で増殖を防ぐ事は効果的である。今後、探索犬の育成を計画的に進めてもらいたい。	まずは、営巣卵探索が沖縄島中部地域で実施可能か検討していきたい。
5	(資料 1-5) アクセス困難箇所等、生体駆除に行けていない森に関してどう対処していくか。	竹富町役場により開拓された作業道を利用してもらい生体駆除を行っていく。また、牛が放牧されていることで生体駆除が実施できていない森については、牛を別の場所に移動してもらえよう牧場主とやり取りできる体制を整えていく。
6	(資料 2) 米軍基地周辺での調査は難しい事もあるが、関係機関と連携して進めていければと思う。また、個体群自体が小さく、さらに広域的に生息している状況なので、高い精度の生息数の推定は難しいと思うが、まずはやってみて、捕獲数を増やし、今後効率の良い捕獲手法を探っていってほしい。	関係機関と調整し、効率的な捕獲手法の確立を行っていく。

令和4年度外来種対策事業（鳥類対策）報告書

令和5年3月

沖縄県環境部自然保護課

〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1丁目2番2号

TEL 098-866-2243 FAX 098-866-2855

業務名 令和4年度外来種対策事業（鳥類対策）

請負者 株式会社南西環境研究所

〒903-0105 沖縄県中頭郡西原町字東崎4-4